

“慶應ボーイ”

第9期OB 竹内 亮介

私は現在、慶應義塾大学大学院の博士課程に在籍しております。大学院生活も早4年を終えようとしていることもあって、近頃、本大学院ご出身の先生方に特有の気風のようなものを、はっきりと感じ取ることができるようになってまいりました。その気風の1つとして、科学的知識の性質（例えば、理論や仮説とは何かという点や、それらはいかにして正当化されるかという点など）に造詣が深いということが挙げられるのではないかと思います。ご専門であるかどうか、あるいは、論文において明示的に取り扱っていらっしゃるかどうかにについては様々であります。そういった議論に精通したうえで研究を行うということが、本大学院に脈々と受け継がれてきた精神的伝統になっていると感じる機会が実に多くあります。

実際のところ、科学的知識の性質を理解していなくても、研究を行っていくことは十分に可能です。しかしながら、研究にとって極めて重要な基礎の基礎だからこそ、それを理解して初めて、特段の説得力を備えた研究を行うことができるようになる気がしてなりません。これは、メジャーリーガーのイチロー選手やダルビッシュ選手に代表されるように、身体の構造やメカニズム、つまりスポーツにとって極めて重要な基礎の基礎まで理解しているプロ野球選手が、優れた結果を残し続けているという事実とも通ずる部分が大いではないでしょうか。

そんなことを思うようになってからは、慶應義塾大学大学院の精神的伝統を継承されている点において、科学的知識の性質に造詣が深い本大学院ご出身の先生方は、まさに“慶應ボーイ”であり“慶應ガール”に他ならないと考えるようになりました。「内部校出身の慶應生」や「お金持ちの慶應生」を指す通俗的な意味とは大きくかけ離れていますが、ここで強調したい意味での“慶應ボーイ”や“慶應ガール”は、きっと、慶應義塾大学大学院の重要な側面を捉えているはずで

す。残念ながら、私は、通俗的な意味における慶應ボーイには該当しておりませんが、今後の取り組み次第では、“慶應ボーイ”にはなれるかもしれません。そのための修行の道は非常に険しいということは承知しつつも、本大学院において学問に取り組む機会をせっかく与えていただいた以上、“慶應ボーイ”を目指しながら、自分なりに研究を突き詰めていきたいと意気込む、今日この頃です。



研究に対する情熱を全身で表現する
“慶應ボーイ”や“慶應ガール”の卵のみなさん
(著者は左から2番目)